

第 15 回 京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会 議事録

開会挨拶（益田文化生活部長）

皆さんこんにちは。文化生活部の益田でございます。

本日は大変お忙しい中、また、お暑い中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

この、スポーツ施設のあり方懇話会ですが、これまでサッカースタジアムですとか、またアイスアリーナなどの施設整備について、ご意見をいただいていた懇話会です。

今回は、京都府の屋内スポーツ施設の整備に関する検討のため、平成 28 年度以来 7 年ぶりに懇話会の開催をお願いした次第でございます。

7 年ぶりの開催ということでございまして、それぞれ競技団体の皆様方におかれましては、役員の方々の交代もございまして、後程ご紹介もございまして、11 名の方が新たに委員としてご参加いただくこととなっております。

就任をご承諾いただきました委員の皆様方には改めてお礼申し上げます。

京都府ではこれまでから、スポーツ施設の整備とともに、トップアスリートのプレーを間近に見ることができる国際大会などの誘致を図ってまいりました。

特に子供たちがスポーツを通じて、夢や憧れを持てるような、豊かな心が育める、そうした取り組みを今後も積極的に進めて参りたいというふうに考えております。

今回、今の京都府に求められる屋内スポーツ施設のあり方等につきまして、委員の皆様方のご専門の立場からご意見を頂戴したいというふうに存じております。

限られた時間ではございますけれども、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単でございますが、開会のごあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

議長選出

京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会設置要領第 3 条に基づき、座長の互選を行い、委員から、山本委員を座長にとの発言があり、山本委員を座長に選出した。

議事（1）懇話会の設置及び運営並びに議事録について

資料 1 京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会設置要領により設置目的を説明、資料 2 により当懇話会の議事録公開に係る取り扱いについて説明し、委員の承認を得た。

議事（2）府内スポーツ施設の状況と今後のスポーツ施設の整備について

文化生活部村井理事及び文化施設政策監付砂子坂理事から、府内スポーツ施設の状況と今後のスポーツ施設の整備について及び今後の屋内スポーツ施設の整備について説明を行

い、各委員から意見を伺った。

＜説明要旨＞

- ・当懇話会の設置目的及び開催経過について説明を行った。
- ・府内スポーツ施設の現状について、令和3年度のスポーツ庁の調査を基に一定規模以上のスポーツ施設数と、これをもとに算出した京都府の順位を紹介した。いずれの施設も大規模施設数の全国順位は低い順位となっており、人口当たりに換算するとさらに下位になっている状況について説明を行った。
- ・特に野球場・ソフトボール場、多目的運動場、体育館がともに全国44位と低い順であり、なかでも体育館については、府総合計画や競技団体からの要望に加えて、現在、府立大学共同体育館の建て替えを検討していることや、向日町競輪場においても整備検討を始めていることを受けて、今回の懇話会では、屋内スポーツ施設整備を議題として、委員の皆様にご意見を伺うもの。
- ・各種屋内スポーツの国際大会等を開催する場合の、施設要件については、各大会それぞれのレベルに応じて、競技場の広さや観客席数等の様々な条件が定められており、京都府としては、スポーツの振興を進めていく上で、国際大会やプロスポーツ等の開催が実現するよう積極的な誘致を図っていきたいと考えており、新たな施設においてはこうした基準を満たすことが必要となっている。
- ・新設する屋内スポーツ施設に求められるスペックは、公式試合等の対応できるコートの大さき、国際大会の開催が可能な観客席に加え、その他諸室でも運営関係者等が必要とする様々な用途に対応して機能的で使いやすい種類の数、部屋数、面積が必要になる。
- ・また、スポーツ以外の利用も想定しており、避難所等防災機能の追加、展示場機能などによるMICEでの活用、更にコンサートをなどの文化イベントでの活用も考えている。
- ・国際大会等の用途に供せられる5000席以上の屋内スポーツ施設について、近隣府県の実況を説明。現在整備中のものも含め、大阪府、兵庫県に大規模スポーツ施設が集中をしている。京都府内では島津アリーナ1件のみの状況である。
- ・全国で近年開業された屋内スポーツ施設の現状を、多機能化、複合化の観点から紹介。多機能化施設として「沖縄アリーナ」「SAGAアリーナ」を、複合化施設として「サンガスタジアム by 京セラ」「長崎スタジアムシティ」「北海道ボールパーク F VILLAGE (エスコ

ンフィールド) について資料を基に説明を行った。

・現在、京都府内で屋内スポーツ施設の整備を検討している場所として、府立大学の共同体育館及び向日町競輪場について資料を基に説明を行った。

・府立大学共同体育館に係る検討状況について、共同体育館整備に係る意見聴取会議などにおける意見聴取の実施状況の説明を行った。

・向日町競輪場について、向日町競輪事業外部有識者会議の概要を説明。競輪事業経営の環境の変化も踏まえ、施設の集約化が図れるのではないかと検討されており、集約化に伴い生じる余剰スペースを活用した屋内スポーツ施設の整備について検討を始めたもの。

議事（３）意見交換

<山本座長>

はい、ありがとうございました。ただいま大規模屋内施設というものについての、京都府の状況ならびに近隣の状況、それから複合化・多機能化にかかわる全国の先端的な事例のご紹介をいただきましたけれども、後ほどまた今後の府内整備の方向性等につきましては、お伺いしたいと思いますので、ただ今説明のありました近況並びに国際大会の開催要件等をご紹介ありましたけれども、今ご説明がありました案においてのご質問、ご意見、あるいはまた感想でも結構ですので、お聞きかせいただければというふうに思いますが、どなたからでも結構ですので、よろしくお願ひいたします。

<綱村委員>

京都府バレーボール協会の綱村です。今ご説明いただいて、現状というかその辺は分かって、特に、資料の最初の方なんかは、絶対数、どれをとっても全国的に低いとかですね、それに加えて国際基準で言えば、バレーボール1つ取り上げてみても、京都府下の体育館で、なかなか国際大会は難しく、Vリーグはせいぜいかなというような、そんなレベルで広さの問題、観客数の問題、そんなことをご説明されたんだと思うんですけど、競技団体側からすると附属施設については、例えば国際大会一つとってもワールドカップとか、その他色々なこと言うと、ドーピングルームから何からと言って非常に注文が多い。もう10年、20年前も、その当時現状の附属施設では、足りなくて周辺の施設を使ってやったとかいう経験をしています。全国をみて、広いところとか、狭いところは、色々大小ですけども、付帯設備ということで言うと、京都市にしても、府立にしても、街中にあるという利便性はある一方、今はモータリゼーション時代になると、駐車場っていう問題が共通して京都府内の施設についていうとあり、制限せざるを得ないというような状況が起こっている。社会的に見たときに検討対象としてお考えいただくとありがたい。

<松島委員>

プロバスケットボールチーム京都ハンナリーズの代表を務めております、松島と申します。私から、まず2つの観点からお話をさせていただければと思います。

まず、バスケットボール業界の人間としての意見としまして、先ほどもおっしゃったようにこのデータから見ても、京都において、スポーツ施設が足りていない、そして、老朽が進んでいるということが明白。まず学生スポーツが、バスケットボールにおいて、東山高校、京都精華と、すごく強豪で日本でもトップクラスの学校があります。また競技人口もすごく多いというような環境の中、ハード面において、チャンピオンシップを戦う場が老朽化している施設であったり、観客目線でも選手たちからも憧れる対象にならないような状況を生んでしまっている。こういったハード面を補うことで、学生にとって更に夢のあるスポーツ、また夢の場所というものになれば、学生スポーツがより一層発展し、街の活性化に大きく寄与すると考えます。

もう1つ、プロスポーツクラブの経営をしている人間としての観点です。プロスポーツクラブの役割としてももちろん勝ち負けは大事です。お客様が熱狂して、明日への希望となり、街が活性化していくという側面はあります。ただ、それだけでなく、試合以外でのクラブ経営を通して、どれだけ京都の町や社会の成長・発展に貢献できるか、必要とされるか。そういったこともプロスポーツクラブの大きな役割です。

役割を全うする為にもアリーナ施設は重要です。施設の大きさ、お客様が何人入っただけかということとところで1万人規模のアリーナが存在するのであれば多くのお客様に我々のプレーを見ていただいて感動をお届けできる。それが地域の皆さんの力の源となって、街が元気になっていく。そして地域貢献活動を深めていく為の拠点、地域活性の大きな原動力になると思います。まさに京都サンガ様のスタジアムというのはすごく素晴らしい前例で私たちが学ぶべき点であります。2つの観点から、建設において重要であると感じております。

<山本座長>

はい。ありがとうございます。

<伊藤委員>

京都サンガの伊藤と申します。いつもありがとうございます。

今の事例の説明をいただきまして、私どものサンガスタジアム by KYOCERA は2020年の2月にこけら落としで、現在、4期目ですか、使わせていただいております。この経験から申し上げさせていただきたいことが2点ございまして、1点目は、球技専用競技場として天然芝を張っておりますが、芝の育成の問題というものもありまして、なかなかスタジアムで、コンサートなどのイベントが開けないということがあります。これはどこのJリー

グクラブも同じです。しかし、アリーナ整備をいただきますと、コンサートとか他のスポーツも含めてイベントに使えるという点が大変大きな経済効果が生まれるのではないかなというふうに感じる次第でございます。2点目は、我々もJリーグクラブの運営をさせていただきますので、素晴らしい施設ができると本当にありがたいと思っています。選手プロの場合、主役は選手ですが、私はいつも、主役は選手以外に、例えば、そこで障害のある方の就業体験の場であるとか、いろんな多様な方がそこに集まる、そして試合だけではなくてその周辺で、感動し、自分も主体的に入っていけるという。これはプロスポーツの面白いところで、先ほどハンナリーズの社長もおっしゃいましたけれども、地域活性化と言いますか、そういうことにも繋がってまいりますので、単にスポーツ観戦だけではなくて、ソフト面の仕掛けも含めれば、多くのこと、場面で、府民市民の方が主体的に入っていけるという、これは新たなまちづくりのあり方の1つではないかなと思っています。今回も素晴らしいアリーナというのは、金銭的な問題ももちろんわかっておりますけれども、京都でも大変遅れているということであれば、何かそういうことを前向きにぜひ進めていただければなというように、今の状況のなかではそのように思っている次第でございます。

<山本座長>

はい。ありがとうございました。その他、皆さんいかがですか。

<田中委員>

バドミントン協会の会長しております、田中でございます。

7年ぶりにこのように、京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会が発足したということは大変喜ばしいことでございます。

時代もスポーツにつきましては大きく変わって参りましたし、それぞれの方々から、皆様ご意見がありましたように、京都は遅れているということで、皆さん競技団体の方々、その場所を取るのに競技場の場所をとるのに汲々として、何かいさかいが起きたりというようなことまで起こっておりますので、その辺りがこのことによって解消されるのではないかなと。ぜひこの懇話会でおまとめいただいて、北エリアの方がいいのか、向日市の方がいいのかと言うことを、是非ともこれは中途半端に諦めないで進めて欲しいなと、このように思う次第であります。以上です。

<山本座長>

はい。ありがとうございます。この昨今の提言の中で、既存施設の老朽化が進んでいるということで、複合的に多機能的に改修していくという点と、ないものはやっぱりこう作るべきじゃないかということ、提言されていたかと思うのですが、屋内スポーツのいわゆる大規模施設と言われる近隣の状況、全国の状況を見て、建設においてはそのテーマ性を示しながら作るということによって、どんなふうに進めていくかというところ

あるかと思うんですけれども、そういうことを必ず必要だなというふうには思いながら。先ほど、国際大会等の誘致については難しいのではないかというようなお話が、委員の方からもありましたけども、実際事務局の方としてもそういうお声は聞いておられますか。京都はなかなか手を上げてもらう、全然乗っかってくれないとか、そんな話はありませんかね。

<村井理事>

失礼いたします。先ほど申しあげましたように、島津アリーナの競技場についてはある一定の広さもあつたり観客席もあるのですが、全体で老朽化ですとか、先ほど綱村委員もおっしゃいました付帯施設、ドーピング室とか、控室とか、シャワールームとか、それから選手の動線でセキュリティ上のこととか、そういう面も含めまして、なかなか条件的には、他の近畿の施設と比べると、悪い言い方をすると見劣りをしてしまうところもありまして、誘致はしているのですけれども、なかなかそれに合致したイベントは実施できないというのが現状でございます。以上でございます。

<山本座長>

ありがとうございます。我々もスポーツに関わっておりますので、例えば体操競技でも、その種目は従来から同じ種目だけれども、例えば鞍馬^{あんば}とかでも、跳馬でもその器具が変わってきているというのがありますし、先ほど、おっしゃいました、全国大会な、国際大会の誘致する時に、面積だけじゃなくて、付帯施設の条件が随分変わってきているというのがかなりやっぱり大きいですか。

<綱村委員>

我々競技団体が地方からお話があつて、やりたいな、やった場合でも、条件的にフロアとか観客のそれそのものは、それで引っかけたというケースは今までないと思うんですけれども、最後に申しあげましたように、国際大会のレベルが上がるほど、VIPルームであつたりですね、今でもドーピングを要求通りにやろうとしたら、現状では間に合わないというのは、現状でギリギリ色々工夫したり、外部から導入したりしながら、なんとかこれでOKしてくれという状態で過去はやってきたっていうような現状でありますので、ぜひ早急に新規にご検討になる場合には、そんなレベルまで細かい配慮をさせていただいて、計画を立てていただくと、我々としては大変ありがたいなとそういう意味で申しあげました。

<山本座長>

ありがとうございます。それでは、ただいま説明がありました範囲内においてのことについて、正直、見劣りするという現実があると思いますけれども、では京都にとって今

後の屋内施設はどういうものが求められるんだろうというところですね、種目でありますとか、利用団体とか、スポーツの実施者、また地域での、求められるものというのは、それぞれ特性があるかなというふうに思うんですね。そういう意味では、それぞれ専門的な立場でやっておられる競技団体の皆様並びに、先ほど出ましたけれども、プロスポーツにおいては、地域密着型の方の中、スポーツだけクラブだけやっておけばいいというものではないというところもありますので、そのあたりについては今回時間が限られておりますが、それぞれの立場で、こういう機能を持ったこういう施設が望まれるという観点から、制限はかけませんので、思いのたけを述べていただければと思います。方向性を見出すのは次回ということでは、また現地も確認しながらもなるでしょうけれども。

まずは、今それぞれ委員さんのお立場から、こういうものが必要じゃないかという意味でのご発言をいただければというふうに思います。強制しますけれども、こちらから右回りでそれぞれ必ず喋って帰るということで、よろしくお願ひしたい。

<村上委員>

高体連の会長をしております。村上と申します。現在高体連には30競技加盟いただいて、各専門で様々な大会運営いただいております。

その観点からで言いますと、4ページに競技種目等を挙げていただいているのですが、高体連の中には、武道も含めて、剣道、柔道、相撲等もあり、特に相撲では島津アリーナと太陽が丘を使って開催されたこともあると聞いています。さらには、フェンシング等もビットを複数貼って全国大会を実施されています。さらには、少林寺拳法も室内でということを考えますと、京都の施設を考えると、多目的に様々な高校生が本当に憧れる聖地になればと考えています。今年、私、北海道のインターハイの開会式に行かせていただいた時に、ちょうど高校野球の北海道の大会が準決勝からエスコンフィールドでできるということで、現地のニュースを見ておりますと、高校生がそこを目標として、甲子園に届かなくても、エスコンフィールドでプレーをしたいんだというようなニュースが流れていました。北海道の新たな聖地になっているのだからというふうにも実感いたしました。そういった意味での、アリーナになればなということと、もう一つ、私は過去10年全てインターハイの開会式に参加させてもらっていますが、平成の26年の東京大会を最後に、平成27年度から、開会式が熱中症予防ということで屋内アリーナで実施されています。また、夏場の開会式ということで、高校生のスポーツの大会ではあるんですけども、開催県が高校生の活動として、文化部のダンスや、演劇やら、様々な歓迎セレモニーを、開会式の後、アリーナで開催されており、すごく感動を覚えております。そういった部分も含めて、高校生が多いに活躍できる施設になることを願っております。以上です。

<山本座長>

ありがとうございます。

<水野委員>

失礼いたします。参考資料の佐賀、長崎の写真を見て、うらやましい限りで、何とか京都にも欲しいなと思ってしまいます。

私専門がテニスなのですが、先日加藤未唯さんが全仏で優勝しましたが、帰ってきて京都では残念ながら練習場所がなくて、兵庫県のブルボンビーンズドームっていうところに練習に行っているんですね。そこはインドアコート 9 面のテニスの専用会場なのですが、兵庫県がどうしてそれを作ってくれたかという兵庫県防災センターで地下が全部その防災グッズが詰まっているんですね。何かあった時のために、その地下に食料品からいろんな防災の道具を詰め込んでありまして。だから上がテニスコートだけでも皆さんが許してもらえたのだと思います。京都もあまりスポーツ施設だけっていうことを考えないで、もう少し目を広げて、他のことにも使用できるようにしたらいいじゃないかと思いません。島津アリーナでテニスの海外選手が来るチャレンジャーという試合を、年に1回やっているんですけども、本当は後ろが短すぎて規定に合わなくて、だましまし、なんとかあるだろうという、屋根がついているところもある後ろを計ってギリギリというところで許可をいただいておりますけれども、本当だったら開催できないので、なんとか国際基準に合わせた施設があれば良いと思います。

<水田委員>

ソフトテニス連盟の水田でございます。ここの屋内スポーツの大会の種目の中には出てこないマイナーな競技でございますけれども、それでもソフトテニス競技は、シニアの大会をいたしますと、全国大会ではインターハイよりも人数が多くなるぐらい高齢化している選手がたくさんいるという幅広い競技でございます。これまでから、やはり年齢の高い人も含めてですけれども、大きな大会する時にやっぱりインドアでの試合というのは欠かせない部分がありますが、京都ではほとんど実現をすることができない。ただ、全国的にはやっぱり京都で大会をしたいという声は非常に多くございます。

したがって、私は、ここの施設で何か求められるものといえば、やはり「広さ」ゆとりのある広さのあるスペースがインドアでできれば非常にありがたいと、このようなことを考えて、参加をさせていただいておりますし、京都府の施設のデータを見せていただいて、全国的にやっぱり厳しかったんだというふうに改めて実感をした状況でございます。前向きにこうして検討していただけるのが非常にありがたいと考えています。

あとは、私はソフトテニス競技ですけれども、この1年間で私がここに来ることを前提ではなくて一般論ですけども、アイスホッケーの関係者の皆さん方の熱い声というのはものすごく、やっぱり京都市内にアイスホッケーがしっかりできる場所がもうない、私の競技よりも強く聞いていたような気がいたしておりますので、改めてこの席でお伝えしたいというふうに思っております。以上です。

<松島委員>

改めまして、松島です。私から先ほど申し上げた部分と、もう2つの観点でお話しします。国際大会ではバスケットボールにおいて、国際大会ができる基準であるべきなのかなと思っております。京都に住んでいると世界的なプレーを間近で見るという機会がなかなかなく、大阪や神戸といったところに足を運ばないといけない。間近で、華やかな世界的なスター選手のプレーを見られるといったようなことが起これば、子供たちの夢につながり、それぞれの人生が彩っていくような体験に繋がっていきますし、子供たちの成長に寄与できる部分が大いにあるのではないかと思います。

ただ、スポーツだけではなくて、やはり経済活性化という意味も込めて、ライブであったり、コンサートのようなことをしながらも、しっかり収益を生んでいく施設でなければ、持続性がありません。京都のブランド力もありますので誘致に対してすごく優位になっていきますし、世界的なメジャーなアーティストがコンサートを行える様な規模、複合的な施設であるべきです。スポーツの観点、また文化的、経済的な観点で、国際的な大会、また興行が行える規模が良いと考えます。

また、私、2歳10か月の娘と半年の息子の父ですので、子育て世代としてもう1つ意見があります。アリーナ建設は街おこし・街づくりの一環です。アリーナを軸にしたその周辺施設並びに公園であったり複合的なスポーツ施設ができることによって、多くの方が直面している、問題を解決できます。私が住んでいるところの周りにはなかなか子供を連れて遊びに行くような場所が少なく、妻はすごく苦労しています。アリーナの付帯施設ができていたり、試合や興行がない日に、アリーナが気軽に立ち寄れる場所であれば、その他付近の場所への子育て世代の流入がすごく活性化するはずです。アメリカでは、スタジアムやアリーナを軸にした街おこし、街づくりが主流の考え方です。街の活性化の為にも今後アリーナ建設が進めば、より豊かな町になっていくと考えます。以上です。

<長谷川委員>

京都府レクリエーション協会の長谷川と申します。お世話になっております。京都府レクリエーション協会は、高齢者の方々、障害者の方々、色んな方々に簡単に楽しくスポーツをさせていただく協会でございます。全国大会もあるんですけども、ここ近年、京都では開催されておられません。もしもこういう素晴らしい体育館ができましたら、誰でもがそこにこれる、バスが入ってこれる、車椅子を利用されている車が入ってこれる。なんか親子の方が歩いてでも乳母車でも、危なくない。今度申し上げますと、私元々京都ではなくて神戸出身なんですけど、ちょっと余談になりますけど、神戸の方から親戚とか来た時に、京都の道は狭いから歩くのが怖いねと結構皆さんおっしゃるところで、そういう意味でもみんなが安全に歩ける町、道路みたいなのは、体育館の近くにあって、今おっしゃられたように遊ぶところもあって、帰りにちょっとどこかに寄れる商業施設なんかも隣接

して、いろんな形でいろんな方が関わってまちづくりをしていただければ、すごい素敵な話だなというふうに今伺いしておりました。どうぞよろしくお願いいたします。

<綱村委員>

バレーボール協会の綱村です。皆さんの話を聞いてて1つ思ったのは、府立体育館の立地っていうのはまさに神技で、あの場所にあの規模でできたのかなというのは改めて国際大会のVリーグをやるとですね、やはり時間がギリギリ9時で終わるかどうか、場合によっては延長になってしまうかもしれないですけど、常に心配することは、いわゆる閉館時間に間に合うかどうかをもさることながら、近隣住民の方が、いわゆる観衆の騒音について常に苦情がある、要はああいうところであれだけの規模で建てるのは、今だったら多分無理ではないかなということを考えています。それで、先ほど京都府からご説明があったので、言い出せばきりがありませんけれども、多分皆さんが想定されているのは、フロア、メインフロア3面、バレーコートでいうと3面、サブコート1面もしくは2面ということイメージされていると思うんですけども、今の、他の府県での想定はバレーに関して言ったら、メインコートで4面は常識に近い形になっているので、新設するならまずそこから形にしないと、今までのように3面プラスで、3コートで1面ないし2面という、そういうのはできたらもう希望の希望になると思いますけれども、コート4面、バレーコート4面っていうあのスペース、それも十分に左右前後の幅が取れてもそのスペースでいくことをお考えいただけるとありがたいなと。それから、設備面等で先ほども申し上げました、ドーピングルームだとか、過去の大会で苦勞したというお話をしましたが、あの、設備面で言うと、バレーボールコートは、国際大会をやろうとしたら、いわゆるタラフレックスという今の木製の体育館面じゃなくて、特別の設備がある。大阪ではそれを備えている施設もあるように聞いております。京都の場合は、それが必要な場合は、あの他府県から業者が運んできて、タラフレックスを全面に貼るっていうような、作業が必要になってくるので、希望を言えばそのようなものも施設も設備の方もお考えいただくとありがたいなというふうに思っております。以上です。

<田中委員>

はい。バドミントンでございますけれども、この間7月末から8月にかけて若葉カップという小学生の全国大会が京都でございました。コロナで人数は、少し制限しておりましたがけれどもこれまで2000人、親子でいらっしゃるんです。それが今年で39回なのでですね。また、観光と結びつける経済効果はすごいです。お子さんには親がついてこられますのでね。ということで京都っていうのは本当に人の集まりがいいのです。すごいです。もったいないなという感じをいつもいたしております。よろしくお願いいたします。

<伊藤委員>

設備面を中心に申しますと、駐車場の問題があります。やはり交通渋滞が起こることもそうですし、公共交通機関として何があるのかということ。

それとですね、近隣の方は二輪車でいらっしゃるの、駐輪場の整備は大変有効かなと思っております。我々の場合は多い時で、近隣も入れたら多分 500 台ぐらいの方がいらっしゃいます。多分 1000 台ぐらいまでは十分あの場所にも需要があるかなと思っておりまして、そういう交通問題というのは、付帯設備としてもやはり検討が必要なものと思っております。

それから、場内で例えば大きな大会をしますと座席について指定席でなく自由席にしますと待機列ができるという問題があるんですね。自由席だと早くから、サッカーの場合は例えば 15 時にキックオフと言っても大体、朝 7 時か 8 時から来られますね。当初一部自由席があったんですけど、歩道にまで列が流れ込んでいくと警察から注意を受けて、安全上の問題に発展しますので今はもうほとんど指定席でさせていただいています。子供たちが友達同士で座りたいのに指定席にしてからでは取りにくいとかですね。本当は自由席も一部残せないかという点で、今はそのようにやっているのですが、待機列問題というのは、実は大変大きなスペースが必要になってまいります。

その他、場外でいわゆる家族の方が楽しんでいただこうと思ったら、場外スペースをどう作っていくのかということも、設備の大事な条件の中にある。他には、試合と試合の間合のハーフタイムとかでトイレに一斉に集中する問題や、座席ごとに入口が違って、外に警備員が立って案内するなど課題はいっぱいあるんですけど、本当にいろんな大会でできるだけ効率よく使えるような設備を研究していただければと思っております。

<山本座長>

はい、ありがとうございました。無理やり喋らせた感じがしますがけれども、先ほども少し触れましたけども、このあり方懇話会から出された提言、以降ですね、最近のスポーツ施設の整備状況というのはどんなふうになっているんですかね。いわゆる提言の中で、効率的なリニューアルということとかですね、全国大会が開催できるような、規模に改修とか、スポーツ科学センターの設置とか、利便性を高めるような改修というような提言がなされましたけれども、最近の京都のスポーツ関係施設の整備の事例っていうのはどのような状況になっているかということなのですかね。

<川崎副部長>

最近の京都府の体育スポーツ施設の整備状況でございますが、近年で申し上げますと亀岡でのサンスタジアムの新設整備がございます。それ以外では、例えば福知山の三段池公園のテニスコートですとか丹後の陸上競技場などに、整備のご支援をさせていただいております。それから山城総合運動公園におきまして、先ほどのアイススケートの通年練

習場の整備では、造成の部分を京都府で対応し、官民連携で施設整備にご協力いただいたというような事例がございます。また、今まさにやらせていただいておりますが、サンガスタジアムの国際大会での活用も視野に、その際の練習場としての活用や、夜間のスポーツ需要にも対応できるような形での、亀岡運動公園、山城総合運動公園での照明設備の整備を行っている状況でございます。

引き続き、いずれの施設も耐用年数に達してきている状況もございますので、府が持っている施設は優先順位を付けながら、各市町村がお持ちの施設につきましては、その有効性などもしっかり見ながら、支援をしてまいりたいと考えております。

<山本座長>

はい、ありがとうございます。ご承知のように、京都の施設整備のピークは、昭和63年の京都国体の開催に向けた整備ということで先ほどありました、昭和56年の建設ということですので30年、40年近くなっているというのが、各市町村も含めて中心的な建設年度になっていて、主には地方においても建設のきっかけが、世界選手権や国際大会とか、国民体育大会の開催というのが1つのきっかけとなって整備されているというのが状況ですけども、ただやはり競技特性や技術進化と言いますか、国際的なスケールでの施設ということになると10年、20年以上経つと間に合わないというような状況になってきているということがありまして。

ただ、府民のスポーツ等との二面性という意味においては、川崎副部長がおっしゃっていただいたように、いろんな面で利用しやすい環境作りには進めていただいておりますけれども、残念ながらアリーナは国際大会では心地よく誘致できるようなアリーナの建設については、府立体育館は改修されましたけれども、近隣の県からすると誘致合戦にはちょっと負けてしまうかなというような状況になっているというようなことです。今日は、スポーツ分野からの方々が殆どです。先ほど出ておりました、スポーツ以外の視点から活用できる、先ほど紹介のあった多機能・複合的な施設としてのあり方と京都ブランドを生かすというような、観点から何ができるのかというのが、大事な視点になってくるかなというふうに思いますので、また事務の方から、今日欠席の委員さんのご意見を伺っていただくよう、よろしくお願ひしたいというふうに思いますけれども。この会場の都合で、時間が限られておりますけれども、これだけはもう一つ言っておきたいなとかということがございましたらお話しいただきたいと思いますので、いかがですか。水田さんどうですか。

<水田委員>

はい。やはり先ほどからお話をいただいておりますように、利便性と京都のまちということを考えますと、やっぱり府立大学の場所というのは本当にいい場所だというふうに感じておりますので、幅広くまちづくりにつながることももちろん大事ですし、そのことも踏まえて、府立大学というのは貴重な場所だと思いますので、ぜひともここを押して進

めていただきたいと、このような意見を持っております。幅広い方々に親しんでいただける施設であって、それが地域の活性化に結びつくのは本当に大事だと思っておりますので、こうした議論を進めていただくのを一生懸命応援したいと考えております。

<山本座長>

ありがとうございます。そのほかございませんか。

事務局の方から、今後の検討と言いますか意見を交換する上で、事務局の方に、こういう点についての調査をしておく必要があるんじゃないかとか、例えば先ほど紹介があった近隣府県のアリーナとの棲み分け部分っていうものについて、どういった観点で考えておく必要があるのかとかですね、あるいはどこと競合してしまうんだろみたいなところを考える必要があるのかないのかっていうこともありますし、結局、どういう狙いで、どういう施設をどこに作っていくかということになるかと思うのですけれども、今京都の中で検討されているのは、 実際府立大学とそれから向日町競輪場の余剰スペースの活用ということ、視野に入れながらということになりますと同時に、地元の要望でありますとか、色んな大会誘致にかかる、近隣の屋内施設との棲み分けの問題とかという視点もやっぱり見逃すわけにはいかないかなというふうに思いますけれども、逆に事務局の方から、委員の方々にこういう観点でご意見をお伺いしたいというようなことがもしあるのであれば、私にいただければと思いますけど、いかがですか。

<村井理事>

失礼いたします。 近隣府県との比較という点でこの競技ならこの施設っていうふうにある程度、固定されるということじゃないですけど、よく開催される場所であったりとか、今話題にありましたスケートとかでも、アリーナでスケート場と併用しているところであったり、またフロアだけのところというのもありますので、その辺りでは、どんなところでどんな競技されているとか、大きな大会でしたら、テレビ中継ですとか、またあの新聞報道とか色々ありますので、またその辺もどんなところでどんな種目がされているとか、立地としてはどんなところなのかとか、色々な情報もこちらからも提供させてもらいたいと思いますし、また委員の皆様方にも色々とアンテナを張っていただいて、情報を仕入れていただいて、また今後の検討の材料にしていけたらなというふうに思っておりますので、その辺りもよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

<山本座長>

ありがとうございます。本日は委員さんの方からは、事務局からの現状報告ということと、今の段階でのご意見を伺ったということですのでよろしいですか。はい、ありがとうございます。それでは、進行を事務局の方にお返ししたいと思います。

議事（４）次回の意見聴取テーマ等について

次回以降の進行についての事務連絡（村井理事）

次回につきましては、本日いただいた様々なご提案を受けまして、京都府で整理をした上で、後日また日程も含めまして、ご連絡を差し上げますので、どうぞよろしく願いいたします。それでは最後に、角田文化施設政策監からご挨拶を申し上げます。

京都府挨拶（角田文化施設政策監）

長時間に渡って、本当に貴重なご意見、ありがとうございます。本当に今、京都の施設は本当に遅れているということで、我々の資料の中でもそうなのですが、ここは本当に1番の課題だと思っているところがございますので、まずはここをしっかりと維持していきたい。合わせて、先生方から意見いただいた中で、特に高校生が憧れる聖地になるようにということで、エスコンフィールドの例なんかもおっしゃっていただきました。本当に、スポーツを通じて子供たちが夢と憧れを持ち、トップアスリートのプレーを観戦したり、体験できる取り組み、こういったものを進めていきたいというふうに思っておりますし、またソフトテニスでは、シニア層の競技人口が多いこと、さらには、レクリエーションについても、高齢者、障害者の方の事例などもおっしゃっていただきました。こうしたものの整備に当たりまして老若男女、障害のある人もない人も共にスポーツに親しむ環境づくりや、スポーツで活躍できる機会の確保、交流できる場作りを進めていく必要があるのだなというふうに感じたところでございます。

また、子育て世代という意見で、親子連れが楽しめるような施設づくりということで、しっかりと魅力ある地域づくりにも資するものとしていきたいというふうに考えております。他の観点につきましては、その他のご意見いただきましたので、今後の検討にも活かしてまいりたいというふうに思っております。本当に有意義な会議となりました。本日、いただいたご意見を踏まえまして、検討を進めさせていただきたいというふうに考えております。本日は、誠にありがとうございました。

閉会挨拶（山副参事）

以上をもちまして、第15回京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会を終了いたします。ありがとうございました。